

保育士の専門性と養成校としての役割

—卒業生の就職状況アンケート調査結果の分析から—

聖園学園短期大学 教 授 古 内 一 樹
聖園学園短期大学 厚生課長 安 田 敦 子

Professionalism of Childcare Workers and the Role as a Training Institution From the Analysis of the Job Survey of Graduates

FURUUCHI Kazuki

Professor, Misono Gakuen Junior College

YASUDA Atsuko

Welfare Section Chief, Misono Gakuen Junior College

要 約

本研究は、聖園学園短期大学卒業生の「就職状況アンケート調査」結果の分析から、卒業生が就職前にどのようなことに不安を抱えていたのか、また、就職後についてはどうか、さらに、在学中に学んでおきたかったことはどのようなことか等について分析し、保育士の専門性との関連性について考察し、養成校としての役割を明らかにした。

その結果、就職前には先輩や職場の同僚とのコミュニケーションに最も不安を抱いており、次いで保護者（取引先・来客など）との関わりであった。就職後の悩みや不安な点としては、技術の未熟さ、保護者との関わり、文章力のなさ、発言する自信のなさ、職場の人間関係の悩み等であった。在学中にもっと学んでおきたかったことは、大部分が保育の専門的知識や技術に関することで、社会的常識としては電話応対やパソコンの技術が挙げられた。保育士の専門性の観点からすると、専門的知識や技術は在学中に十分指導すべき内容であるが、人間関係すなわち人間性に関する部分については、学校教育に限らずあらゆる活動の場面で涵養されるべきものとする。そのためには、在学中の指導にとどまらず、保育現場との連携強化が重要である。

キーワード：保育士の専門性、資質・能力、専門的知識・技術、人間性の涵養、現場との連携

Key words : professionalism of childcare workers, qualities and abilities, expertise, fostering personality for childcare, collaboration with childcare facilities

目次

はじめに

- 1 学習指導要領等の改訂と基本的な考え方
- 2 社会に開かれた教育課程
- 3 育成すべき資質・能力
- 4 保育士の専門性に関する議論

第1章 研究の目的

第2章 研究の方法

第3章 アンケート調査結果の分析

- 1 卒業前に抱いていた就職への不安点
- 2 就職してからの悩みや不安点
- 3 保育や福祉の仕事でもっと学びたかったこと
- 4 社会的常識として学んでおきたかったこと

第4章 考察

第5章 まとめ

はじめに

1 学習指導要領等の改訂と基本的な考え方

文部科学省は、2014年（平成26年）より学習指導要領等の改訂に取り組んできた。（平成26年11月20日：中教審諮問、平成27年8月26日：論点整理、平成28年12月21日：中教審答申等）そして、2017年（平成29年）3月31日、幼稚園教育要領、小・中学校学習指導要領を公示、特別支援学校（幼稚部・小学部・中学部）は平成29年4月28日改訂告示を公示、2018年（平成30年）3月30日、高等学校学習指導要領公示となった。幼稚園教育要領は平成30年より完全実施となったが、今回の学習指導要領等の改訂の基本的な考え方は、次の通りであった⁽¹⁾。

- 教育基本法、学校教育法などを踏まえ、これまでの我が国の学校教育の実践や蓄積を活かし、子供たちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成する。その際、子供たちに求められる資質・能力とは何かを社会と共有し、連携する「社会に開かれた教育課程」を重視する。
- 知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成のバランスを重視する現行学習指導要領の枠組みや教育内容を維持した上で、知識の理解の質をさらに高め、確かな学力を育成する。
- 先行する特別教科化など道德教育の充実や体験活動の重視、体育・健康に関する指導の充実により、豊かな心や健やかな体を育成する。
- 高大接続改革という、高等学校教育を含む初等中等教育改革と、大学教育改革、そして両者をつなぐ大学入学者

選抜改革の一体的改革の中で実施される改訂である。（これは高等学校に限定）

この学習指導要領等改訂の背景は、子供たちに、情報化やグローバル化など急激な社会的変化の中でも、未来の創り手となるために必要な資質・能力を確実に備えることのできる学校教育を実現することであった。

2 社会に開かれた教育課程

社会に開かれた教育課程とは、①社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと。②これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自分の人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育んでいくこと。③教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること、である⁽²⁾。

つまり、これまでの学校は、どちらかと言うと閉鎖的で学校内のことはよく知られていなかったが、これからは、学校の教育目標や育てたい子供の姿などを、もっと家庭や地域にオープンにして、共有・連携しながら学校の教育目標を達成していこうとするものである。

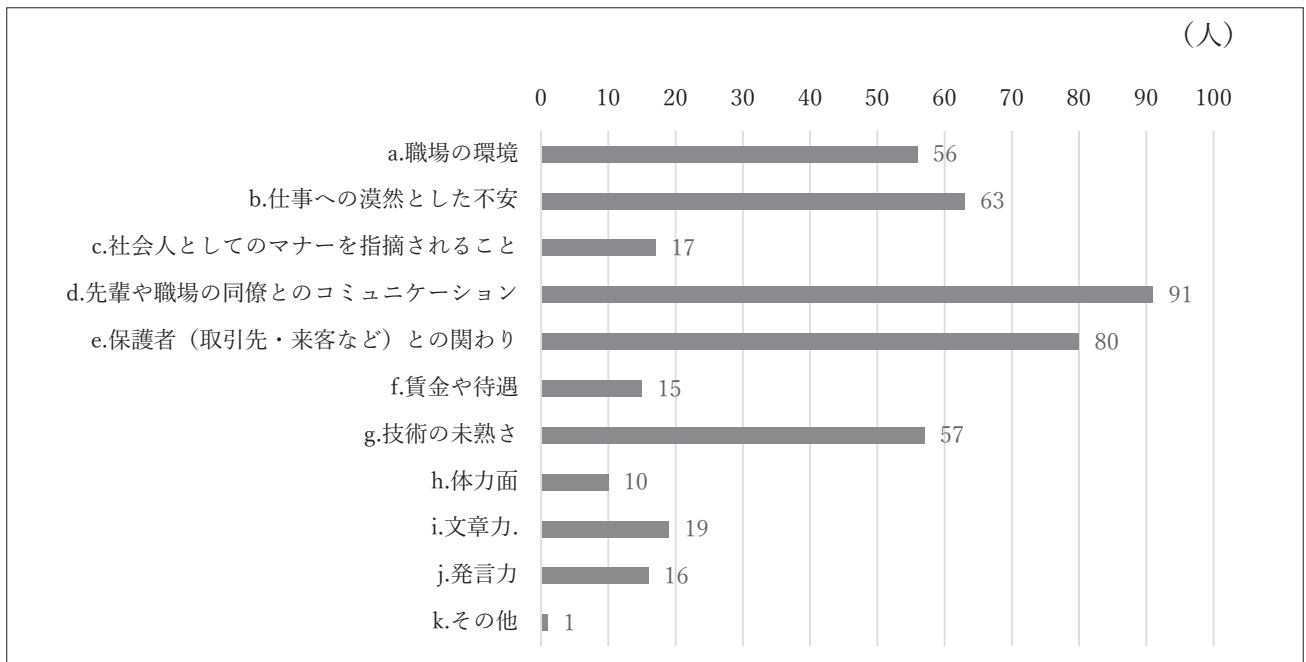
3 育成すべき資質・能力

これまでは何を理解しているか、に重きが置かれていたが、今回の改訂では、理解していること・できることをどのように使って、何ができるようになるか、どのように社会や世界と関わり、よりよい人生を送るかに重点が移された。そのための育成すべき資質・能力が示されたが、それは、「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の3つであった。幼稚園での育成すべき資質・能力は、「知識及び技能の基礎」、「思考力・判断力・表現力等の基礎」、「学びに向かう力、人間性等」の3つである⁽³⁾。当然のことながら、聖園学園短期大学（以下「本学」という）では保育者養成校として、子どもたちにこの3つの資質・能力を育むことを意識するよう学生を指導している。

4 保育士の専門性に関する議論

保育士の専門性に関しては、これまで多くの研究者によって研究が積み重ねられてきた。特に、保育士資格が国家資格となった2003年以降はその傾向が顕著である。垣内：2011⁽⁴⁾、野田・藤田：2011⁽⁵⁾、小笠原・野崎他：2017⁽⁶⁾、本岡・濱名・山田：2020⁽⁷⁾、山本：2021⁽⁸⁾、前田：2023⁽⁹⁾などの研究は、その典型的な例である。

また、著者による研究の視点は、保育士養成側の立場か



(図1) <質問2>卒業前に抱いていた就職への不安点

らのものや、保育士側や園側の立場からのものなど様々である。しかしながら、保育士の専門性については、一定の結論には達していない、あるいは結論付けられないとするものもあるが、保育士の専門性に関する研究は、今後、さらに継続していく必要がある。

第1章 研究の目的

本学では毎年11月に、その年の3月に卒業した卒業生を対象とした「保育スキルアップ講座」を実施している。この時、参加者に「就職状況アンケート」（資料1）を実施し、結果を本学での学生指導に活かしている。この「就職状況アンケート」とは、本学の卒業生が就職してからの職場での状況（悩みや不安点）や学生時代にもっと学びたかったこと、社会常識として学んでおきたかったことなどについて調査するものである。

これらの結果から、就職前後の悩みや不安点、在学中に学んでおきたかったこと等について分析し、それが保育士の専門性とどのように関連するのか、また、養成校としての役割は何か、について明らかにすることを本稿では目的とする。むろんその結果を、養成校として今後の指導に活かしていくことになる。

なお、「保育スキルアップ講座」は、2017年（平成29年）より開講しており、コロナ禍だった2020年（令和2年）は、対面開催、2021年（令和3年）は、ZOOMによるオンライン開催だった。本講座は令和7年度も実施されたため、実に9年間に及び継続して開催してきたことになる。

第2章 研究の方法

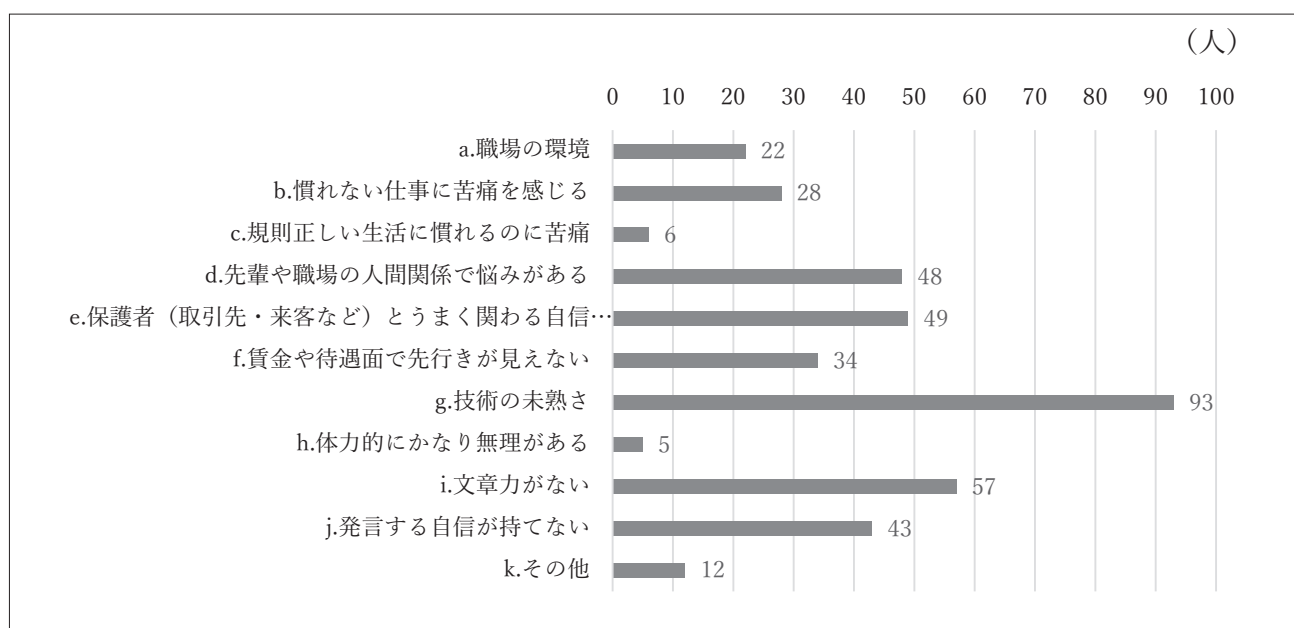
「就職状況アンケート」の直近3か年（令和4年度～令和6年度）の調査結果を分析し考察する。

アンケートでは、氏名、勤務先等を記入の上、8つの質問に対し1問を自由記述とし、7問は選択肢から選んで回答する方式とした。質問は以下の通りである。<質問1>現在の職場について、<質問2>卒業前に抱いていた就職への不安点3つ、<質問3>就職してから今の悩みや不安点3つ、<質問4>今の職場に今後何年間勤めたいか1つ、<質問5>保育や福祉の仕事について、もっと時間をかけて学びたかったこと5つまで、<質問6>社会的常識に関するもので、学生時代に学んでおきたかったこと3つまで、<質問7>短大における学びは役に立っているか、<質問8>求職活動にあたって後輩にアドバイスしておきたい点について自由記述、等である。

ここでは、保育士の専門性に関わる質問についてのみ取り上げることとする。「卒業前に抱いていた就職への不安点」、「就職してからの悩みや不安点」、「保育や福祉の仕事について、もっと時間をかけて学びたかったこと」、「社会的常識的なもので、学生時代に学んでおきたかったこと」等である。また、それが保育士の専門性にどのように関連するかについて考察する。

第3章 アンケート調査結果の分析

ここでは先述した4つの質問、「卒業前に抱いていた就職への不安点」、「就職してからの悩みや不安点」、「保育や



(図2) <質問3>就職してからの悩みや不安点

福祉の仕事について、もっと時間をかけて学びたかったこと、「社会常識的なもので、学生時代に学んでおきたかったこと」、について項目ごとに、学生がどのような意識であるか、あるいはあったかについて分析する。

なお、当講座への3年間の参加者は総計145名で、そのうちの回答者は144名、回答率は99.3%であった。特別な事情がない限り、多くの卒業生は参加しており、アンケートの回答率も頗る高い。

1 卒業前に抱いていた就職への不安点

<質問2>「就職前に抱いていた就職への不安点」については、(図1)に示したように「d.先輩や同僚との職場のコミュニケーション」が91人と最も多く、次いで「e.保護者（取引先・来客など）との関わり」が80人、「b.仕事への漠然とした不安」が63人となっている。これに続いて、「g.技術の未熟さ」が57人、「a.職場の環境」が56人となっている。

多くの回答を集めた3項目のうち、「a.職場の環境」と「b.仕事への漠然とした不安」は、保育者としての業務に限らず、どのような職種についても考えられることであるため、分析対象から除外することとする。

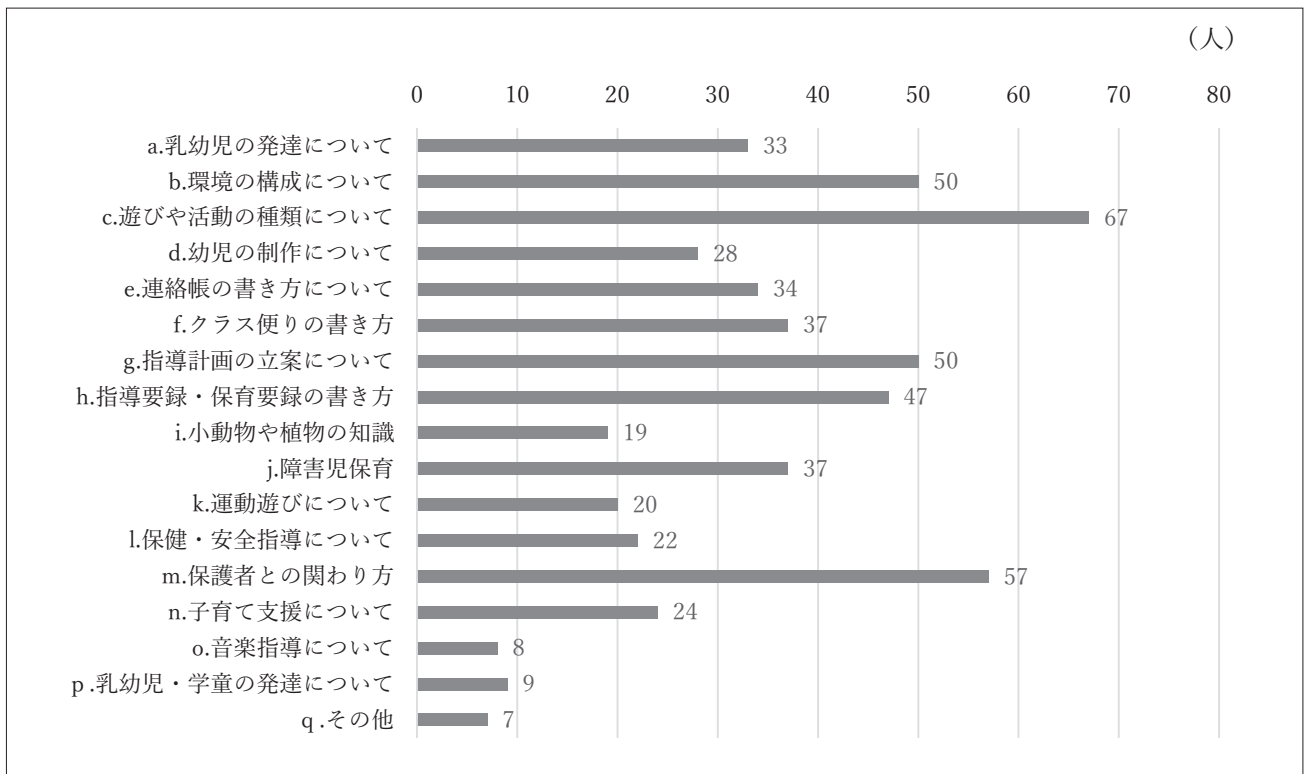
卒業前に抱いていた不安の中で最も多かったのが「d.先輩や同僚との職場のコミュニケーション」であることは首肯できる。これまでの学生生活とは全く異なる社会人生活への不安は誰しもが抱くものであろう。特に、新しい職場に対しては、どのような先輩や上司がいるのか、また、どのようにそのような人たちと仕事をしていけばよいのか、当然のことながら不安な心情は察することができる。最近では、こうした人間関係になじめず悩み、入社早々辞職し

てしまう新人が少なくないと聞く。文部科学省の「新規学卒就職者の3年以内の離職率の推移」⁽⁴⁰⁾をみても、高校卒と短大等卒で約4割、大学卒で約3割の新人が3年以内に離職している。また、自分では直接上司に言い出せず、辞職を伝える専門の請負会社から電話連絡してもらおうケースもあるという。職場の人間関係についての悩みは、今ここに始まった問題ではない。

次に多かったのが「e.保護者（取引先・来客など）との関わり」であるが、これも人間関係に含まれる問題である。新人として職場に配属になって早々に、保護者対応や取引先や来客に対して適切に対応できるかと問われれば、これも困難なことで答えざるを得ない。就職して間もない頃は、自分の担任する子ども一人一人についての理解はまだ不十分であり、保護者から子どもについての質問や家庭での関わり方等の相談があったとしても、保護者を納得させるような回答を準備することは困難と思われる。また、職場の内部事情がよく理解できていない状況の中で、外部業者とのやりとりや電話での応対等も極めて難しいといわざるを得ない。このようなことを勘案すると、卒業生が卒業前に抱く不安な点は、保育者という職種に限定されたものではなく、社会人となった新人誰もが抱くだろう当然の不安といえよう。

2 就職してからの悩みや不安点

<質問3>「就職してからの悩みや不安点」については、(図2)に示したように、「g.技術の未熟さ」が93人と圧倒的な数字になっている。この後は拮抗し、「i.文章力がない」が57人、「e.保護者（取引先・来客など）とうまく関わる自信が持てない」が49人、「d.先輩や職場の人間関



(図3) <質問5> 保育や福祉の仕事でもっと学びたかったこと

係で悩みがある」が48人、「j. 発言する自信が持てない」が43人となっている。

「g. 技術の未熟さ」については、学生時代に、保育について多くの時間を費やして学んだにもかかわらず、実際に職場に勤めてみると、自身の保育に関する技術の不足を実感しているということになる。現場では、学生時代に学んだこと以上に様々な指導すべきことや子どもに対する対応すべき案件が生じてくる。予期せぬ突発的な事案が発生した時に、適切に対応することの難しさを実感していると考えられる。

「i. 文章力がない」については、学生時代、学習として実習日誌や取り組みの振り返りを記録するなど、文章を数多く書いてきたはずであるにもかかわらず、そのように感じている卒業生が相当数いる。語彙力や文章力の養成は一朝一夕にできるものではないが、不足していると思う点について、研鑽を継続する自らの意識によっては、不安を軽減することは可能である。

また、「e. 保護者（取引先・来客など）とうまく関わる自信が持てない」については、就職前に抱いていた不安が、就職後もそのまま残存していることになる。こうした不安は、保育者に限らず学校教員の抱える不安ともいえよう。

この不安を解消するためには、やはりある程度の経験年数が必要と思われる。多くの経験を通して少しずつ解消されていくのではないだろうか。

「d. 先輩や職場の人間関係で悩みがある」については、

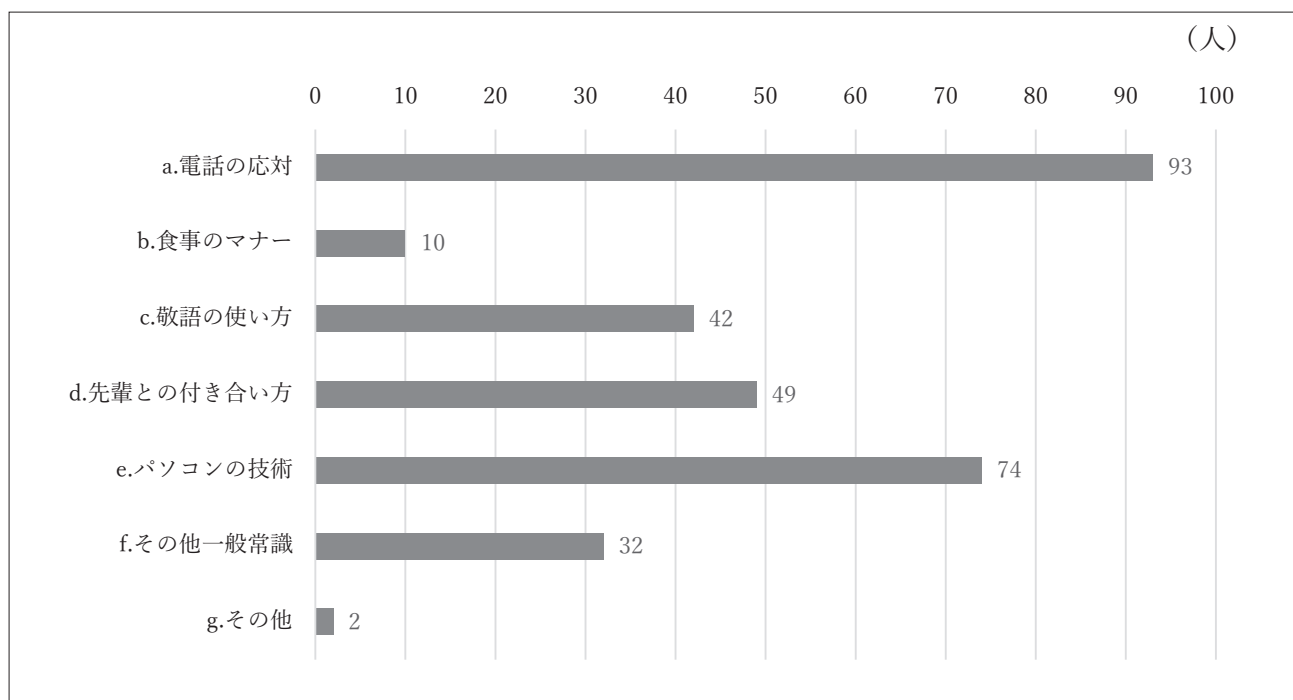
就職前の不安が現場に入ってから現実のものとなった感がある。大事なことはストレスを抱え込まず、職場の上司や同僚などに早めに相談し、解決すべきと考える。

「j. 発言する自信が持てない」についても、自信を持てるように、まず発言の裏付けとなる一般教養や知識の蓄積は、就職してからも意識して積極的に行うことで解消されるものと推察される。

3 保育や福祉の仕事でもっと学びたかったこと

<質問5> 「保育や福祉の仕事でもっと学びたかったこと」については、「c. 遊びや活動の種類について」が67人で最も多く、続いて「m. 保護者との関わり方」が57人、「b. 環境の構成について」が50人、「g. 指導計画の立案について」が50人となっている。回答数の多かった4つのうち3つまでもが保育の知識や技術に関わることである中で、ここでも「m. 保護者との関わり方」との回答者が57人もいることは注目に値する。

「c. 遊びや活動の種類について」や「b. 環境の構成について」、「g. 指導計画の立案について」は保育の専門科目として、「保育原理」や「保育内容の指導法」等を通して学習する内容となっているが、授業中のみならず、疑問点の解消やさらに学びを深めるためには、担当教員の指導を仰ぐなどして、自ら積極的に学習に取り組む必要がある。また、これらの項目については、2年間を通して5回実施される教育・保育実習の際に、現場の教員からも指導を仰ぐ



(図4) <質問6>社会的常識として学んでおきたかったこと

ことになりそう。特に「g. 指導計画の立案について」は、本学での指導をベースに、現場での実態に即して計画を立案しなければならないため、現場の教員からの指導はより有効と思われる。

「m. 保護者との関わり方」についてであるが、在学時の授業を通して、一般的な保護者との関わり方を事例研究等で一通りは学習することにはなるが、現場では予想を超える様々な事案が起るために、卒業生が不安になる気持ちは理解できる。このことについても、実際に数多くの事例を経験している現場の教員からの指導を真摯に受け止めてほしい。

保護者対応については、まずは一人一人の子どもに対する理解が、その大前提になる。子どものことをよく理解できていない状況の中では、適切な保護者対応はできない。そのためにも、保育者は、毎日、子どもたちとしっかりと向き合い、一人一人の子どもの性格や特徴を理解するよう努めるべきである。

4 社会的常識として学んでおきたかったこと

<質問6>「社会的常識として学んでおきたかったこと」については、「a. 電話の応対」が93人で最も多く、次に「e. パソコンの技術」が74人、「d. 先輩との付き合い方」が49人となっている。ここでの質問は、保育者という職種に限定されるものではなく、一般の社会人として学んでおきたかったこと、身に付けておきたかったことと、捉えることができる。

「a. 電話の応対」は、現場に配属となった新人にとって、

外部からの電話をとること自体、不安であることは察するに余りある。電話をとっても相手側と適切に受け答えができるか、心配なのである。そのために、電話が鳴ってもなかなか電話をとれないでいる状況が目につく。本学では2年間にわたりキャリア教育の一環として、社会人となるための様々な指導を計画し実施している。電話応対についても計画され実施している。(資料2)しかし、教えられるだけでは個人的に自信を持って電話応対ができるレベルまでにはなかなかいかないことも現状である。

次に多かったのは「e. パソコンの技術」である。この項



写真1 社会人講話 (2025.5.9)



写真2 社会人力アップ講座 (2025.12.2)

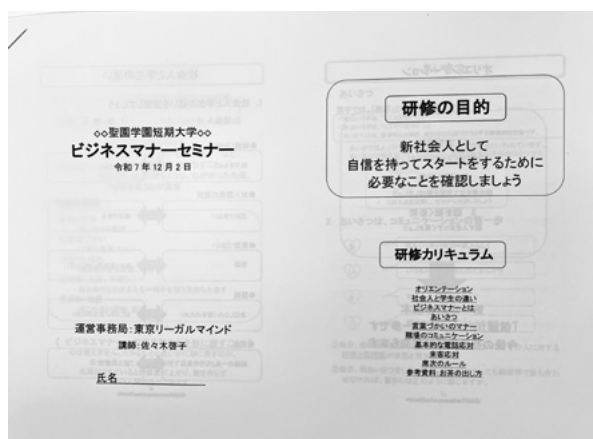


写真3 ビジネスマナーテキスト

目に関しては、就職後の初任者研修やその後の5年経験者研修、その他様々な研修の機会に、プレゼンテーションという形で発表しなければならないケースが想定される。この時、発表資料の作成に当たり、パソコンをうまく使いこなせていなければ、適切な資料を作成できないという不安があるものと推察される。本学ではそのためにパソコンの「特別講座」や「情報処理Ⅰ」、「情報処理Ⅱ」を開講している。しかし、一部は選択科目であるため、必ずしも全員が科目を履修しているわけではない。在学中は、そこまで将来のことを考えてはおらず、就職してから後悔しているのではないだろうか。学生の将来展望の甘さといわざるを得ない。

「d.先輩との付き合い方」については、「就職後の悩みや不安な点」という質問項目でも回答数が多かった。在学中には、授業や「実習の事前指導・事後指導」においても

指導される内容ではあるが、実際に現場に入ってみると指導されたこと以外の想定外の事案も出てくるために、卒業生は悩むことになるのであろう。

第4章 考察

保育士の専門性に関して、『幼稚園教育要領解説』においては、「第1章 総則 第1節 幼稚園教育の基本 5 教師の役割」に、「幼児の主体的な活動と教師の役割として、幼児の自発的な活動としての遊びを中心とした教育を実践することが何よりも大切である。…」とある⁽¹¹⁾。また、「幼児一人一人の行動と内面を理解し、心の動きに沿って保育を展開することによって心身の発達を促すよう援助することにある。そのためには専門家としての自覚と資質の向上に教師が努めることが求められる。」とある⁽¹²⁾。

一方で『保育所保育指針』では、「第1章 総則 1 保育所保育に関する基本原則 (1) 保育所の役割」に次のようにある⁽¹³⁾。「エ 保育所における保育士は、児童福祉法第18条の4の規定を踏まえ、保育所の役割及び機能が適切に発揮されるように、倫理観に裏付けられた専門的知識、技術及び判断をもって、子どもを保育するとともに、子どもの保護者に対する保育に関する指導を行うものであり、その職責を遂行するための専門性の向上に絶えず努めなければならない。」(傍線は筆者)

そして、『保育所保育指針解説』には、以下のように記載されている。「保育所の保育士に求められる主要な知識及び技術として、①これからの社会に求められる資質を踏まえながら、乳幼児期の子どもの発達に関する専門知識を基に子どもの育ちを見通し、一人一人の子どもの発達を援助する知識及び技術、②子どもの発達過程や意欲を踏まえ、子ども自らが生活していく力を細やかに助ける生活援助の知識及び技術、③保育所内外の空間や様々な設備、遊具、素材等の物的環境、自然環境や人的環境を生かし、保育の環境を構成していく知識及び技術、④子どもの経験や興味や関心に応じて、様々な遊びを豊かに展開していくための知識及び技術、⑤子ども同士の関わりや子どもと保護者の関わりなどを見守り、その気持ちに寄り添いながら適宜必要な援助をしていく関係構築の知識及び技術、⑥保護者等への相談、助言に関する知識及び技術、の六つである。」⁽¹⁴⁾。

しかし、これは、保育士に求められる専門的知識及び技術であって、これだけが保育士の専門性ではない。もちろん専門的知識や技術は、専門性の中に含まれることは論をまたない。

保育士の専門性とはどのようなことなのか。このことについて、小笠原他(2017)は、養成校と保育現場での認識の違いについて指摘している⁽¹⁵⁾。また、前田(2023)は、保育者の専門性については未だ明らかにされていないわけではないとしている⁽¹⁶⁾。ここで、保育士の専門性について

明らかにすることは本稿の目的ではない。しかしながら、保育士の専門性について、本アンケート調査結果から考察するに当たり、一定の保育士の専門性についての指標を設定する必要がある。

保育士の専門性についての先行研究⁽¹⁷⁾⁽¹⁸⁾⁽¹⁹⁾を参考とした上で、「子どもの発達理解」、「専門的知識及び技術」、「倫理観に裏付けられた判断力と行動力」の3つの視点からアンケート調査結果を考察する。

またその際、上記の専門性の要素は、「在学期間中」、「卒業し就職してから（就職後）」、「在学期間中及び就職後」のどの時期で養成できるかについても併せて考察する。

「子どもの発達理解」については、前述の『幼稚園教育要領解説』に「幼児一人一人の行動と内面を理解し、心の動きに沿って保育を展開することによって心身の発達を促すよう援助する」とあるように、まずは一人一人の幼児をしっかり理解することが重要である。このことを前提として、保護者とのコミュニケーションも図られるであろうし、また、子どもの指導に関する職員同士の共通理解、意思統一によって、園としての一貫した指導ができるものと推測する。

アンケート調査結果からの分析では、就職前に抱いていた「保護者との関わり」及び就職後の「保護者とうまく関わる自信が持てない」等についての項目とも関連してくる。このことについては、養成校としての指導というよりは、実際に就職してから一人一人の幼児について理解を深めていくことになる。もちろん、在学中においても、発達心理学や児童心理学、発達障害等の科目について、十分に学んでおく必要がある。

「専門的知識及び技術」については、就職前にもそうであったが、就職後の悩みや不安な点が「技術の未熟さ」だったことと、在学中にもっと学んでおきたかったことのほぼ全てに合致する。「保護者との関わり方」についても、子ども理解を前提としているが、人間関係形成・社会形成能力と捉えるならば、これも「専門的知識及び技術」といえるかもしれない。

また、「職場の同僚や保護者・取引先等とのコミュニケーション」も、コミュニケーション能力と捉えるならば、「専門的知識及び技術」ということになろう。さらに、「社会的常識として学んでおきたかったこと」の「電話の応対」や「パソコンの技術」も「専門的知識及び技術」の要素に合致する。もちろん、この2つ「電話の応対」と「パソコンの技術」は保育士の職種に限定されるものではなく、広く一般的な職種にも共通するものである。

「専門的知識及び技術」の要素については、養成校として在学中にしっかりと身に付けさせるべき内容である。「就職後の悩みや不安な点」で、「技術の未熟さ」や「文章力がない」がアンケートにおいて回答数が多くなっていることは、養成校として大きな課題である。養成校として、卒

業生が就職後にそのような悩みや不安を抱かないように、在学中に授業や5回に及ぶ教育実習、保育実習、施設実習等を通して、具体的に丁寧な指導を心掛けなければならない。

保育士の専門性に関わるならば、『幼稚園教育要領解説』に「幼児の自発的な活動としての遊びを中心とした教育を実践することが何よりも大切である。」とあるように、教師（保育者）が幼児の遊びにどう関わるのか、教師（保育者）の役割の基本を理解することが必要であり、そのために、幼児の自発的な活動としての遊びを生み出すために必要な教育環境を整えることが重要になってくる。そして、遊びをより豊かにさせるよう教師（保育者）は努力し、そのための専門的な知識を在学中にしっかり身に付けておく必要がある。

「倫理観に裏付けられた判断力と行動力」については、「就職前に抱いていた就職への不安な点」において最も多かった「先輩や職場の同僚とのコミュニケーション」や、就職後の「保護者（取引先・来客など）とうまく関わる自信が持てない」、「もっと時間をかけて学びたかったこと」の質問項目のうちでは、「保護者との関わり方」等に関連してくる。

倫理観とは、個人や社会が持つ道徳的な価値観を示す基準であり、何が正しい行動であるかを判断するための考え方である。そして、これには価値判断、行動規範、責任感、共感等の要素が含まれる。つまり、総合的に考えるとその人個人の人間性と捉えることができるかもしれない。

小笠原ら（2017）は保育現場という立場からの研究で、次のように指摘している。「保育現場の管理職や保育上の認識としては、受容的な姿勢や立ち居振る舞い、保護者との親密性の構築等を、保育を営むうえでの基礎的な資質を保育士の専門性として認識していることを窺い知ることができる。（中略）先輩や上司からの指導に対して素直であること、『使命と責任感』、『協調性や協力的態度』、『愛と思いやり』、『乳幼児への理解』を挙げており『挨拶ができること』、『時刻を守ること』、『仕事に積極的であること』、等々、社会人としての極めて基本的な課題を含めて、個人としての性格や性質・感情等に求めている。…」⁽²⁰⁾

つまり、保育現場では、既述した保育士の専門性3つの要素の中でも、特に、保育士個人の人間性を最も重視していると捉えることができる。

全国保育士会倫理綱領に、「自らの人間性と専門性の向上に努め、…」とある⁽²¹⁾（傍線は筆者）。では、この人間性はどの時期にどのように養成すべきであろうか。

第5章 まとめ

本稿では、卒業生の「就職状況アンケート調査」の結果から、保育士の専門性との関わりについて分析し、考察し

てきた。その結果、以下の4点が明らかになった。

- ① 就職前、卒業生が最も不安を抱いていたのが「先輩や職場の同僚とのコミュニケーション」であり、次に「保護者（取引先・来客など）との関わり」であった。これは人間関係に関わることであり、個人の人間性（コミュニケーション能力や人間関係形成力等）に起因することである。
- ② 就職後の悩みや不安な点として、「技術の未熟さ」がトップで、「文章力がない」、「保護者（取引先・来客など）とうまく関わる自信が持てない」、「先輩や職場の人間関係で悩みがある」、「発言する自信が持てない」と続いていた。技術の未熟さや文章力のなさ、発言する自信が持てない等に関しては、明らかに専門的（基礎的と言っても良い）知識及び技術の不足からくるものであろう。この点に関しては、養成校としての指導責任を負うところが大きく、養成校としての課題として真摯に受け止めなければならない。そして、ここでも人間関係に関する悩みは看過できない。
- ③ 「在学中にもっと時間をかけて学びたかったこと」の質問では、大部分が専門的知識及び技術的なことであった。この点についても、今後、養成校としての丁寧な指導や抜本的な指導改善が望まれる。
- ④ 「社会的常識として学生時代に学んでおきたかったこと」として、「電話の応対」や「パソコンの技術」が突出しており、養成校としては、キャリア教育の一環として、社会人講話や社会人力アップ講座などにより指導はしているものの、必ずしも充分とはいえず、今後さらに指導方法について検討していく必要がある。

最後に、養成校の役割に言及し擱筆する。

保育士の専門性の一要素である専門的知識及び技術について、学生の在学期間中の授業や実習を通して、養成校が身に付けさせるべきであるのは当然のことである。（この場合、子どもの発達理解も、専門的知識に含める）しかしながら、卒業生が就職後に専門的知識及び技術に不安を抱いているとすれば（現に抱いていた）養成校としての責任は重大である。もっとも、技術面に関しては、在学期間中のみならず、現場でさらに多くのことを学ぶことになるものと推察される。

一方、人間関係すなわち人間性に悩んでいる状況も見受けられた。人間性とは個人の資質に関わるもので、人が生まれながらに持ち合わせているもの、換言すると先天的なものと思われる。しかし、この人間性は生涯変わりようのないものではない。

人間性の涵養に関しては、短大在学中に限らず、生後まもなくからの家庭教育、成長していく段階でのその子を取り巻く家庭環境・社会環境、そして幼児期からの保育や教育により培われていくものと考えられる。とすれば、短大在学

中においても人間性の涵養を強く意識して学生と関わっていく必要がある。また、この専門的知識及び技術と人間性は、ともにある一定の期間に養成が終結するものではなく、生涯にわたって養成されていくべきものである。教員（保育者）の学び続ける姿勢が強調される所以である。

専門的知識及び技術の修得並びに人間性の涵養に関して重要なことは何か、それは保育現場と養成校との連携と考える。卒業生の就職後、保育現場からも勤務状況等を通して学生にもっと身に付けて欲しい知識及び技術や資質・能力等について意見を伺い、養成校としてそれに応えていくために、それらをどのように育成していくべきかを考え、実践していく必要がある。今後は、卒業生への就職アンケートの他に、就職先の幼稚園や保育所、施設等からのアンケートを分析し、卒業生に不足している知識及び技術や人間性に関わる資質・能力等について明らかにし、養成校として学生の指導にしっかり活かしていくべきである。

加えて、本学教員同士の連携や、保育に関する新しい情報、知識及び技術も積極的に学んでいく必要があり、それがひいては現場での保育の質を高めることにつながると考えている。

短大在学中の2年間という限られた時間の中で、専門的知識及び技術を修得させ、人間性も涵養するには限りがある。実習先や就職先の幼稚園や保育所、施設等との連携によって、これらの知識及び技術や人間性を育てていくことが肝要であり、具体的にどのように連携するのか、その手段の開発が待たれる。

引用文献

- (1) 秋田大学教職大学院 (2019) 「学校現場に即した理論と実践 I～II 資料編」 pp.26-27, p.54
- (2) 前掲 (1) p.28
- (3) 前掲 (1) pp.29-31
- (4) 垣内国光 (2011) 『保育に生きる人々 調査に見る保育者の実態と専門性』 (ひとなる書房)
- (5) 野田敦史・藤田雅子 (2011) 「保育士の専門性における構成要因の検討」 東京未来大学研究紀要 第4号 37-43
- (6) 小笠原文孝・野崎秀正・大坪祥子・崎村英樹・木本一成・崎村康史・湯山樹里・石井 薫 (2017) 「保育現場の視点から捉えた「保育士の専門性」議論の再考 保育科学研究 第8巻 84-92
- (7) 本岡美保子・濱名 潔・山田直之 (2020) 「保育者は「保育者の専門性」をどのように捉えているか—保育記録を用いた学びの会の議事録に着目して—」 広島都市学園大学子ども教育学部紀要 7 (1) 27-36
- (8) 山本 寛 (2021) 「保育士の専門性・専門性意識と施設における専門性マネジメント」 青山経営論集 第56巻 第3号 22-41
- (9) 前田舞子 (2023) 「保育者の専門性に関する一考察—幼保小連携・接続をめぐる議論から—」 名古屋女子大学 紀要69

- (人・社) 161-170
- (10) 文部科学省：新規学卒就職者の3年以内の離職率の推移資料2-3. 参考資料(データ集) 1
- (11) 文部科学省 (2017)『幼稚園教育要領解説』(フレーベル館) p.45
- (12) 前掲 (11) p.46
- (13) 厚生労働省 (2017)『保育所保育指針解説』(フレーベル館) p.362
- (14) 前掲 (13) p.17
- (15) 前掲 (6)
- (16) 前掲 (9)
- (17) <https://hoiku-support.info/senmonsei-7511> (2025.10.15アクセス)
- (18) 社会福祉法人ふたばの森 双葉こどもの園 (2024)「保育士の専門性とその社会的意義」
- (19) 新しい考え方の見つけ方 保育のホ (2024)「保育士に求められる主要な知識及び技術」
- (20) 前掲 (6) p.92
- (21) 「全国保育士会倫理綱領」(全国社会福祉協議会、全国保育協議会、全国保育士会)
- (6) 白石崇人 (2015)『幼児教育の理論とその応用②保育者の専門性とは何か』(社会評論社)
- (7) 井上輝昭 (2017)「保育士不足の要因に関する考察」名古屋女子大学 紀要63 (人・社) 239-250
- (8) 野崎秀正・小笠原文孝・佐々木昌代・大坪祥子・崎村英樹・木本一成・石井 薫・勝田芳孝・崎村康史 (2018)「保育士の専門性向上に伴う保育業務の変化の実態と課題」保育科学 第9巻 52-65
- (9) 中屋航平 (2021)「保育士の専門職化に関する研究－「管轄権 (jurisdiction)」をめぐる言説に着目して－」人間発達学研究 第12号 129-130
- (10) 吉田直哉・鈴木康弘・安部高太朗 (2018)「保育者の「専門性」諸要素の構造化の試みの現状と課題 日本教育学会大会研究発表要項 77巻 265-266
- (11) 鶴沢由美子・太田由加里・田口久美子・上野恵子 (2022)「保育の質を考える－保育者の専門性の観点から (1)」明星大学社会学研究紀要 43 1-14
- (12) 鶴沢由美子・太田由加里・田口久美子・上野恵子 (2023)「保育の質を考える－保育者の専門性の観点から (2)」明星大学社会学研究紀要 44 1-28
- (13) 貫洞伊織 (2024)「保育士の専門性と社会的評価」専修大学ゼミ代表論文 (要旨 pp.1-2)
- (14) 中原大介 (2025)「保育士の専門性に関する一考察－福祉専門職としての観点から－」福祉健康科学研究 (20) 71-79
- (15) 館井絵倫子・朴 信永 (2025)「保育者の専門性に関する研究の動向と今日的課題」相山女学園大学教育学部 紀要18 (1) 79-89
- (16) 竹石聖子・大村 壮・鈴木久美子・加藤寿子 (2025)「保育職の抱える実態と課題についての考察－卒業生へのインタビュー調査から」常葉大学短期大学部 保育と実践 第20号 75-80
- (17) 文部科学省 <https://www.mext.go.jp/index.htm> (2025.10.22アクセス)

参考文献

- (1) 垣内国光・櫻谷真理子 (2004)『子育て支援の現在 豊かな子育てコミュニティの形成をめざして』(ミネルヴァ書房)
- (2) 垣内国光・東社協保育士会 (2007)『保育者の現在 専門性と労働環境』(ミネルヴァ書房)
- (3) 全国保育士会 (2007)『「保育士の研修体系」～保育士の階層別に求められる専門性～』
- (4) 竹石聖子 (2011)「保育者の専門性についての一考察－「人間性」と「専門性」に着目して」常葉学園短期大学 紀要第42号 95-103
- (5) 竹石聖子 (2013)「若手保育者の職場への定着の要因～早期離職の背景から～」常葉大学短期大学部 紀要 第44号 105-113

保育士の専門性と養成校としての役割 —卒業生の就職状況アンケート調査結果の分析から—

(資料1)

就職状況アンケート

卒年月	令和4年3月	学籍番号		氏名	
勤務先			仕事の内容	正職・臨時・パート	
				<small>(記入例: 事務、販売、1歳児副園)</small>	

※回答を選んで○印を付けてください。

1. 現在の職場についてお聞きします。

- a. 大変満足している b. 満足している c. どちらともいえない
d. 満足していない e. 全く満足していない

(回答理由:)

2. 卒業前に抱いていた就職への不安な点を、次の中から3つ選んでください。

- a. 職場の環境 b. 仕事への漠然とした不安 c. 社会人としてのマナーを指摘されること
d. 先輩や職場の同僚とのコミュニケーション e. 保護者(取引先・来客など)との関わり
f. 賃金や待遇 g. 技術の未熟さ h. 体力面 i. 文章力 j. 発音力
k. その他()

3. 就職をして約4ヶ月ですが、今の悩みや不安な点を次の中から3つ選んでください。

- a. 職場の環境 b. 慣れない仕事に苦痛を感じる c. 規則正しい生活に慣れるのに苦痛
d. 先輩や職場の人間関係で悩みがある e. 保護者(取引先・来客など)とうまく関わる自信が持てない
f. 賃金や待遇で先行きが見えない g. 技術の未熟さ h. 体力的にかなり無理がある
i. 文章力がない j. 発音する自信が持てない
k. その他()

4. 今の職場に、今後、何年間働きたいと考えますか? 次の中から1つだけ選んでください。

- a. 定年まで b. 10年 c. 5年 d. 2~3年 e. 1年

- f. 本当は今すぐでも辞めたい g. 退職した h. 転職した
i. その他()

5. 保育や福祉の仕事について、もっと時間をかけて学びたかったことは何ですか? (5つまで)

- a. 乳幼児の発達について b. 環境の構成について c. 遊びや活動の種類について
d. 幼児の制作について e. 連絡帳の書き方について f. クラス便りの書き方
g. 指導計画の立案について h. 指導要録・保育要録の書き方 i. 小動物や植物の知識
j. 障害児保育 k. 運動遊びについて l. 保健・安全指導について
m. 保護者との関わり方 n. 子育て支援について o. 音楽指導について
p. 乳幼児・学童の発達について q. その他()

6. 保育者としての社会的常識に関するもので、学生時代に学んでおきたかったことは何ですか? (3つまで)

- a. 電話の応対 b. 食事のマナー c. 敬語の使い方
d. 先輩との付き合い方 e. パソコンの技術 f. その他一般常識
g. その他()

7. 短大における学びは、貴方にとって役に立っていると思いますか?

- a. とても役に立っている b. あまり役に立っているとは思えない
c. ほとんど役に立っていない d. その他()

8. 求職活動にあたって後輩にアドバイスしておきたい点についてお書きください。



(資料2)

令和7年度 キャリア教育計画

【1年】キャリア教育 I

回数	日付	内容	会場	担当
1	4月8日(火)	CCE研修	ライネルスホール 教育実習室	蛭田・内藤 厚生課
2	4月18日(金)	オリエンテーション 国語入学前課題テスト	301 302	蛭田・厚生課 大原
3	4月25日(金)	ポートフォリオについて 秋田県保育士修学資金説明会	301	東海林 厚生課
4	5月9日(金)	社会人力アップ講座「スーツの着こなし」	301 302	厚生課
5	5月16日(金)	レポートの書き方について	301	大原
6	6月5日(木)	チャペルコンサート	聖堂	東海林・櫻庭
7	6月6日(金)	施設見学事前説明会	301	藤原
8	6月20日(金)	保育スキルアップ講座「観劇」	ライネルスホール	蛭田・厚生課
9	6月27日(金)	施設見学	各施設	藤原 1年担任等
10	7月2日(水)	社会人講話 「将来に向けて希望の持てる秋田の創造へ」	マリアホール	蛭田・厚生課
11	7月4日(金)	施設見学情報交換会	301	藤原
12	7月11日(金)	県内保育関係施設合同説明会	秋田キャンパスホール	厚生課
13	7月18日(金)	あきた病院オンライン見学会	マリアホール	藤原
14	10月10日(金)	ポートフォリオについて	301	東海林
15	12月5日(金)	社会人力アップ講座「ビジネスマナー・電話応対」	301	厚生課
16	1月14日(水)	卒業生講話 (1年目の卒業生を招いて)	マリアホール	蛭田・厚生課
17	1月23日(金)	自己分析(TA)	301	厚生課
18	1月30日(金)	自己分析	301	厚生課
19	2月10日(火)	2年生就職活動報告・施設実習説明会	301	厚生課

令和7年度 キャリア教育計画

【2年】キャリア教育 II

回数	日付	内容	会場	担当
1	4月18日(金)	ポートフォリオについて(東海林) オリエンテーション、求職登録	201	東海林 厚生課
2	4月25日(金)	年金について 求人票の見方について	201	厚生課
3	5月2日(金)	履歴書・受験報告書・内定届について 面接試験について	201	厚生課
4	5月9日(金)	コミュニケーション能力向上を目的とする実技研修 I	201	蛭田・厚生課
5	5月16日(金)	コミュニケーション能力向上を目的とする実技研修 II	201	蛭田・厚生課
6	6月20日(金)	保育スキルアップ講座「観劇」	ライネルスホール	蛭田・厚生課
7	6月27日(金)	園長シンポジウム	マリアホール	蛭田・厚生課
8	7月2日(水)	社会人講話 「将来に向けて希望の持てる秋田の創造へ」	マリアホール	蛭田・厚生課
9	7月4日(金)	保育スキルアップ講座「現場の保育研究を学ぶ」	マリアホール	蛭田・厚生課
10	7月11日(金)	県内保育関係施設合同説明会	秋田キャンパスホール	厚生課
11	9月30日(火)	「車庫で語り合う秋田で働く魅力」 (2・3年目の卒業生を招いて)	201 202	蛭田・厚生課
12	10月7日(火)	ポートフォリオについて	201	東海林
13	10月21日(火)	社会人力アップ講座「心療内科医による講義」I	マリアホール	蛭田・厚生課
14	10月28日(火)	社会人力アップ講座「心療内科医による講義」II	マリアホール	蛭田・厚生課
15	12月2日(火)	社会人力アップ講座「ビジネスマナー」	201	蛭田・厚生課
16	12月16日(火)	実践力アップ講座「保育のひきだし」	201	蛭田・厚生課
17	1月14日(水)	卒業生講話 (1年目の卒業生を招いて)	マリアホール	蛭田・厚生課
18	1月20日(火)	社会人力アップ講座「社会人になるあなたへ」	201	大原・厚生課
19	1月27日(火)	キャリア教育まとめ	201	蛭田・厚生課